

2025年11月

教会学校校長及び教師
教会・伝道所牧師及び役員
キリスト教関係施設及び学校 皆様へ

第43総会期 日本基督教団教育委員会
委員長 横山ゆずり

2025年度 全国教会学校クリスマス献金のお願い

主の御名を賛美いたします。日本基督教団教育委員会では、クリスマスの時期を☆喜びを分かち恵みの時☆ととらえて、「みんなで生きよう」の主題のもと皆さまに献金をお願いしています。今年には以下のような計画を立てました。子どもたちと共に、困難の中に置かれている世界と日本の人々の苦しみや喜びに寄り添い、クリスマス献金をおさげしたいと思います。

<募金計画>

主 題：「みんなで生きよう」

ウクライナのおともだちと共に、パレスチナ・ガザのおともだちと共に
能登半島地震で被災したおともだちと共に
アイヌのおともだちと共に
東日本大震災で被災したおともだちと共に
全国の教会の子どもたちと共に（「教会学校応援セット」）

献 金 先：特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン
パレスチナ自治区・ガザにある アハリー・アラブ病院
北陸学院キリスト教センター・支援窓口
北海教区アイヌ民族情報センターとアイヌ奨学金キリスト教協力会
東北教区放射能問題支援対策室いずみ
教会・伝道所の教育活動支援（「教会学校応援セット」として）

～上記のほか、緊急に必要なところに献金の一部をお送りする場合があります～

献金目標：800万円

期 間：2025年12月1日～2026年3月31日

送 金 先：①郵便振替 00150-8-27638 日本基督教団教育委員会 もしくは
②ゆうちょ銀行 0一九店（ゼロイチキョウ店）当座預金 0027638 日本基督教団教育委員会

問合せ先：日本基督教団教育委員会 クリスマス献金係 メール：kyouiku-c@uccj.org
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31 電話：03-3202-0544 ファックス：03-3207-3918

※「趣意書」は、子どもたちへの説明や、CS教師会などで是非ご活用下さい。
※子ども向け広報誌「みんなで生きよう」を追加でご希望の場合は、上記までご請求下さい。
※また、「みんなで生きよう」の送付部数が多い場合も、お手数ですが上記までご連絡下さい。
次年度より部数を減らしてお送りします。

2025年度 クリスマス

平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。《マタイ 5 章 9 節》
～今年は次の5件に献金を献げたく、ご案内をいたします～

1. ウクライナのおともだちと共に： 特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン

2022年2月24日のロシア軍による侵攻から3年半以上が経過しました。ウクライナでは、軍事施設以外に、住居、学校、病院、発電所や給水施設などのインフラも攻撃を受け、一般市民の生活は依然として深刻な状況です。2025年5月には、ウクライナの首都キーウが過去最大級の攻撃を受けたとされました。厳しい戦禍が続くなか、支援を必要とする人は国内だけでも1270万人、これ以外に国外に避難する難民は680万人いるとされています。チャイルド・ファンドは、首都キーウやハルキウといったウクライナ国内、および隣国のモルドバで支援を続けています。

＜現在の主な支援活動＞ ～食糧支援・越冬支援・教育支援・心のケアなど～

- ・水と食糧の支給、衛生キットや生理用品等の配布。
- ・マイナス20℃の冬を越すため、毛布・暖房器具などの配布、燃料費のサポート。
- ・子どもたちの心のケア、安心して過ごせる居場所づくり。
- ・地雷の注意を呼びかける啓発。 ・トラウマケアが行える人材の育成。
- ・水道設備の修復、避難所への設備支援、学校への防空シェルターの設置。

世間の関心が薄らぎつつある中、現地からは、資金が不足しているとの声が上がっています。ウクライナの子どもたちや家族のために、引き続き、温かいご支援をお願いいたします。

2. パレスチナのおともだちと共に： パレスチナ自治区・ガザの アハリー・アラブ病院

パレスチナは聖書の主な舞台でもあります。1948年のイスラエルの建国以降、多くのパレスチナ人は代々生活していた土地・家・故郷を奪われてきました。軍事対立や経済封鎖による混乱と貧困があり、教育と保健医療は慢性的に不足しています。その中で、ガザ北部にあるアハリー・アラブ病院（聖公会エルサレム教区運営）は、宗教や民族の違いに関係なく、すべての住民に高水準の医療を提供する総合病院です。救急外来は24時間体制で、食糧はもちろん医療活動に不可欠な電気や水道がたびたび止められる状況の中で、医療活動を続けてきました。

2023年10月7日、イスラエルはハマスへの報復として、ガザ市内の過密住宅地へ大量の爆弾を落としました。それ以来、攻撃は続いています。アハリー・アラブ病院は、毎日外来患者700人、入院患者約200人を受け入れています。イスラエルは自衛権を主張して攻撃を正当化し、パレスチナ住民への兵器による無差別攻撃、強制移住を進めています。これは国際人道法の重大な違反です。封鎖による食糧不足により、特に最近では、多くの人たちが飢餓のため命を落とす事態となっています。2025年10月9日現在、死者の数は6万7千人、小さな子どもたちの餓死は特に痛ましく、イスラエルによる人権侵害・侵略戦争・ジェノサイドは明らかです。

*2025年10月10日、イスラエル軍によるガザ停戦が発効され、和平「第1段階」として人質解放とパレスチナ人釈放、ガザへの物資搬入が始まりました。2年に及ぶ戦闘終結となるのか、今後の動きを見守りたいと思います。「平和を実現する者」として、人々のために祈りましょう。

3. 能登半島地震で被災したおともだちと共に： 北陸学院キリスト教センター・支援窓口

2024年1月1日、能登半島で震度7、M7.6の地震が発生しました。金沢市にある北陸学院では、学院キリスト教センターが中心となり、被災当初より被災地支援を続けています。

北陸学院キリスト教センター支援窓口 堀岡満喜子室長より以下のご報告をいただきました。門前道下（とうげ）地区の大倉さんのローズガーデンには毎年5～6月、豊かなバラが香りを放ちます。1月に被災した昨年の秋に1回目のコンサート、今年6月8日には2回目のコンサートを開催しました。地元の方々が200名ほど集われて、天気の良い外で、能登の山々と美しい庭園に囲まれながらしばらくの時間を過ごしました。このような企画を成立させるには100万円近くの費用がかかります。最低限の生活をするというだけではなく、人との笑顔の交流や花を愛でたり、音楽を聴いて歌ったり…そういう精神や心を満たす時間が人にはどうしても必要です。北陸学院からも大学ハンドベ

ルクワイアが美しいベルの音を奏で、地域のアンサンブルオーケストラ金沢の弦楽器隊やエンジェルコーラス（子どもたち）が力を合わせて、心豊かな時間をつくり上げてくださいました。

仮設住宅は小さなキッチンと4畳半のワンルームで、夫婦で足をのばして寝ることもできないご様子です。文字通り「最低限の生活」をなさる中、少しでも生活のやわらぎを添える働きをさせていただきたいと願って、大学の田中教授はじめ全国からの大学生ボランティアも含めてご尽力くださっています。皆さまからの多くのお支え、ご支援を心から感謝いたします。

大学生ボランティア・被災地の人々を支える北陸学院の被災地支援活動を応援しましょう。

4. アイヌのおともだちと共に：

北海道アイヌ民族情報センター と アイヌ奨学金キリスト教協力会

北海道は先住民族であるアイヌ民族の人たちが昔から自然と共に生きてきた土地で、アイヌの言葉でアイヌ・モシリ「人間の土地」といいます。けれど日本が近代国家として歩むなかで、アイヌ民族の人たちはそれまで住んでいた土地での生活、文化や言葉も奪われてきました。そうした過去の歴史を反省するなかから、1988年に《アイヌ奨学金キリスト教協力会》が設立され、アイヌ民族の修学・人材養成・国際交流に対する支援を行ってきました。柱である奨学金制度のほか、アイヌの子どもたちの学習教室《とかちエテケカンパの会》の支援や、先住民族との文化交流にも資金が用いられています。1996年には「アイヌ民族の権利回復と差別撤廃を教会が宣教課題として取り組むことを目的」として《北海道アイヌ民族情報センター》が開設されました。

2025年度は奨学生13名（高校生7名、大学生6名）、皆様からの献金のおかげで年々奨学生支援が増えていきます。その他、2025年8月、とかちエテケカンパとカナダ先住民族交流に支援しました。昨年はエテケの子どもたちがカナダへ、今年はカナダの先住民族が日本に来ての交流でした。

アイヌの人々の生活はいまだに苦しい状況に置かれており、進学率も低いままです。そのような環境の中で努力し、進学、卒業へと進んでいる子どもたちを覚えお祈りください。

5. 東日本大震災で被災したおともだちと共に： 東北教区放射能問題支援対策室いずみ

2011年3月11日の東日本大震災より14年が経ちました。東京電力福島第一原子力発電所事故により、今まで自然豊かに暮らしていた土地、山、海は放射能により汚染されてしまいました。

放射能による健康影響が最も大きいのは子どもたちです。2013年10月、そうした子どもたちとご家族の不安を少しでも取り除こうと、医師による健康相談や甲状腺エコー検査、保養プログラムなどを行うため、《東北教区放射能問題支援対策室いずみ》は発足しました。今年で12年を迎えます。教団教育委員会でも、2013年度クリスマス献金より継続して支援してきました。

～東北教区放射能問題支援対策室いずみの具体的な活動は以下の通りです～

- ①甲状腺検査や健康相談 ②親子保養プログラム ③「311子ども甲状腺がん裁判」（東京地裁継続）「子ども脱被ばく裁判」（2024年11月最高裁判所 上告棄却 上告不受理の決定）の支援～活動の大きな柱である「甲状腺エコー検査」が2025年2月15日で通算100回を迎えました。第1回の検査は2013年12月8日、累計検査者数は（のべ）4,597名（2025年3月現在）。14年がたった現在でも「安心」と「継続」を望む声は根強く、今後も継続していきます～支援活動は長期にわたって続ける必要があります。今年もいずみの働きを覚えてお祈り下さい。

*それぞれの団体の活動は、各団体のHP(ホームページ)でもご確認いただけます。

どうぞ『みんなで生きよう』誌と併せて、教会学校の子どもたち、幼稚園・保育園・子ども園、学校の子どもたちにご紹介くださり、またそれぞれの団体の働きのためにお祈りください。

6. 教会学校のおともだちと共に： 「教会学校応援セット」 *2007年度より実施

皆さまから届けられた献金は、上記5件のほか、「教会学校応援セット」贈呈のためにも用いられます。教会学校（子どもの教会）を再開したい、活性化させたいという祈りに寄り添うことができるようにと、以下の4つのコースを用意し、希望する教会・伝道所に贈ります。

コース内容

- (A) 聖書10冊、こどもさんびか10冊、「伴奏譜」1冊 (3教会)
*「聖書」は口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳の中からお選び下さい。
*「こどもさんびか」は「1987年度発行」か「改訂版こどもさんびか」をお選び下さい。
- (B) 聖書物語絵本と紙芝居、教材とカードのセット (3教会)
- (C) ヒムプレーヤー 1台 (2教会)
- (D) 新規：能登半島地震や豪雨で被災した教会学校の枠 (*希望する教会は是非ご応募下さい)

【「教会学校応援セット」応募に関して】 *締め切りは 2026年1月31日

- ①応募を希望する教会・伝道所は、教師会または役員会でご検討いただき、教団教育委員会にお申し込み下さい。「教会学校応援セット申込書」は所定の用紙があります。教育委員会にお問い合わせいただき、「申込書」をお取り寄せ下さい。 (電話：03-3202-0544)。
- ②「申込書」に必要事項をご記入のうえ、ファックス (03-3207-3918) またはメール (Email: kyouiku-c@uccj.org) でお申し込み下さい。応援セットをお届け後に委員会より様子をお伺いしますので、連絡先は詳しくご記入ください。 締め切りは 2026年1月31日です。(厳守)

- ※過去に「教会学校応援セット」の贈呈を受けられた教会・伝道所は3年間応募をご遠慮下さい。
※申込書に記載された《活動予定》と《教会規模》等を考慮のうえ、2月開催の教育委員会にて選定および決定いたします。結果はお電話でご連絡いたします。
※「教会学校応援セット」贈呈後に簡単な「報告」を提出していただきます(締め切り7月31日)。

☆ 昨年度(2024年度)クリスマス献金 感謝報告 ☆

2024年度のクリスマスも「みんなで生きよう」という主題のもとで献金をお願いいたしました。日本全国各地より、教会学校ばかりではなく、キリスト教学校、幼児施設、そして個人、団体から、心のこもった貴い献金をお寄せいただきました。大変ありがとうございました。教育委員会で検討した結果、献金の配分については、以下のようにさせていただきました。

献金総額： 6,738,784円 (合計431件 2024.4.1~2025.3.31)

送り先・金額： 550万円

<海外>

- ① 認定NPO法人 チャイルド・ファンド・ジャパン 《ウクライナ緊急支援》 150万円
② パレスチナ・ガザ地区 アハリー・アラブ病院 (聖公会エルサレム教区運営) 75万円

<国内>

- ③ 北陸学院キリスト教センター 《能登半島地震支援の為のボランティア活動》 75万円
④ 北海教区アイヌ民族情報センター・アイヌ奨学金キリスト教協力会 100万円
⑤ 東北教区放射能問題支援対策室いずみ《甲状腺検査・親子保養プログラム等》 150万円

2024年度、「教会学校応援セット」の応募はありませんでした

*以上の5件にクリスマス献金を送金いたしました。
残金は広報費等に用いました。